

府中市学校施設個別施設計画

平成30年3月

府中市教育委員会

目 次

第1章 学校施設個別施設計画の背景・目的等	1
（1）学校施設個別施設計画の背景	1
（2）学校施設個別施設計画の目的	1
（3）学校施設個別施設計画の計画期間	3
（4）計画対象施設	3
第2章 学校施設における基本方針	4
（1）「学びプラン」（府中市教育推進計画）における方針	4
（2）府中市公共施設等総合管理計画における方針	5
（3）府中市公共施設等総合管理計画における維持管理・修繕・更新等方針	6
（4）府中市公共施設等総合管理計画におけるフォローアップの実施方針	10
第3章 学校の状況と課題	11
（1）学校の状況	11
（2）学校の統廃合について	14
（3）児童生徒数の変化	15
（4）児童生徒数の予測	16
（5）児童生徒数の学校ごとの予測	16
（6）児童生徒数減少の検討	17
第4章 学校施設の劣化状況	18
（1）学校施設（校舎・屋内運動場）整備状況	18
（2）建物の基本情報	19
（3）建物の構造躯体の健全性及び劣化状況	20
（4）学校プールの劣化状況	21
（5）維持管理の項目・手法等	22
（6）屋上・屋根評価について	23
（7）外壁評価について	24
（8）内部仕上・電気・機械設備評価について	25
第5章 学校改修のコスト比較	26
（1）従来型の維持更新コスト	26
（2）長寿命化型の維持更新コスト	27

(3) 長寿命化のコスト比較と今後の方針	28
第6章 直近における個別施設改修計画	29
(1) 直近5年の個別施設の整備計画	29
第7章 学校施設個別施設計画の継続的運用について	29
(1) 情報基盤の整備と活用	29
(2) 推進体制の整備	29
(3) フォローアップ	29

第1章 学校施設個別施設計画の背景・目的等

(1) 学校施設個別施設計画の背景

府中市学校施設個別施設計画（以下「計画」という。）策定の主な目的は、中長期的な維持管理に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図り、学校施設に求められる機能・性能を確保することです。

学校施設に求められる機能・性能確保においては、平成25年度の耐震補強工事完了により耐震化率100%を達成し、県内市で最も早く安全・安心な教育環境を整えることができました。平成26年度末に建物内部改修を中心として、非構造部材の耐震化やエコ改修を含めて「府中市小中学校改修計画」を策定しました。それに基づいて、天井扇設置、照明器具の更新及びトイレ改修を進めてきましたが、個別施設計画と内容が重複することや、平成29年度に小中一貫校が義務教育学校への移行もあり、既存の内部改修計画に施設維持管理計画を含めた「府中市学校施設個別施設計画」を策定しました。

府中市内には、昭和40年代の高度経済成長期から昭和50年代にかけて建設された公立小中学校施設が多くあります。そのため改築から長寿命化改修への転換を図ったとしても、今後10～20年間に於いて改築・大規模改修・維持管理等に多額の費用を要するものと考えられます。

また、現在抱える問題として、近年の温暖化に伴う夏場の猛暑による児童生徒の健康対策が急務であるため、空調設備設置等の環境対策も計画に含めて検討する必要があります。

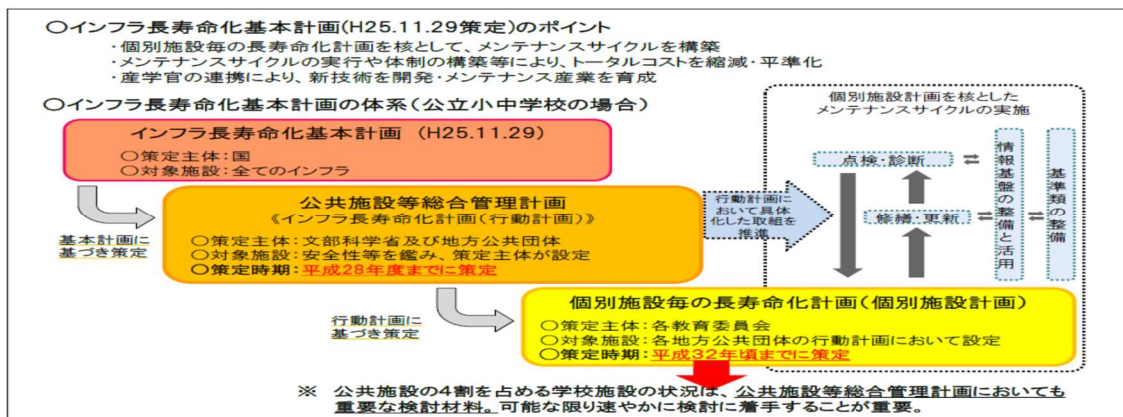
(2) 学校施設個別施設計画の目的

財政面におきましては、長期的な人口減少等による市税収入の伸び悩みや、少子高齢化社会の進行に伴う扶助費等経費の増大などによる財政の悪化が見込まれます。このため固定費ともいえる学校施設の維持改修費をいかにして適正な水準に抑えていくかが喫緊の課題です。

本市では、生活中心街と集落市街地がつながるネットワーク型のコンパクトシティを目指しており、まちづくりの将来計画を形作る一つの方策として、国の「インフラ長寿命化基本計画」（平成25年11月）に基づく「府中市公共施設等総合管理計画」（平成28年3月）を策定しました。そして、府中市学校施設の個別計画として「学校施設個別施設計画」の策定をし、学校施設の整備や維持管理を計画的に効率よく行い、施設の寿命を延ばし、学校施設の利活用促進や統廃合を進めることによって将来の財政負担を軽減していきます。

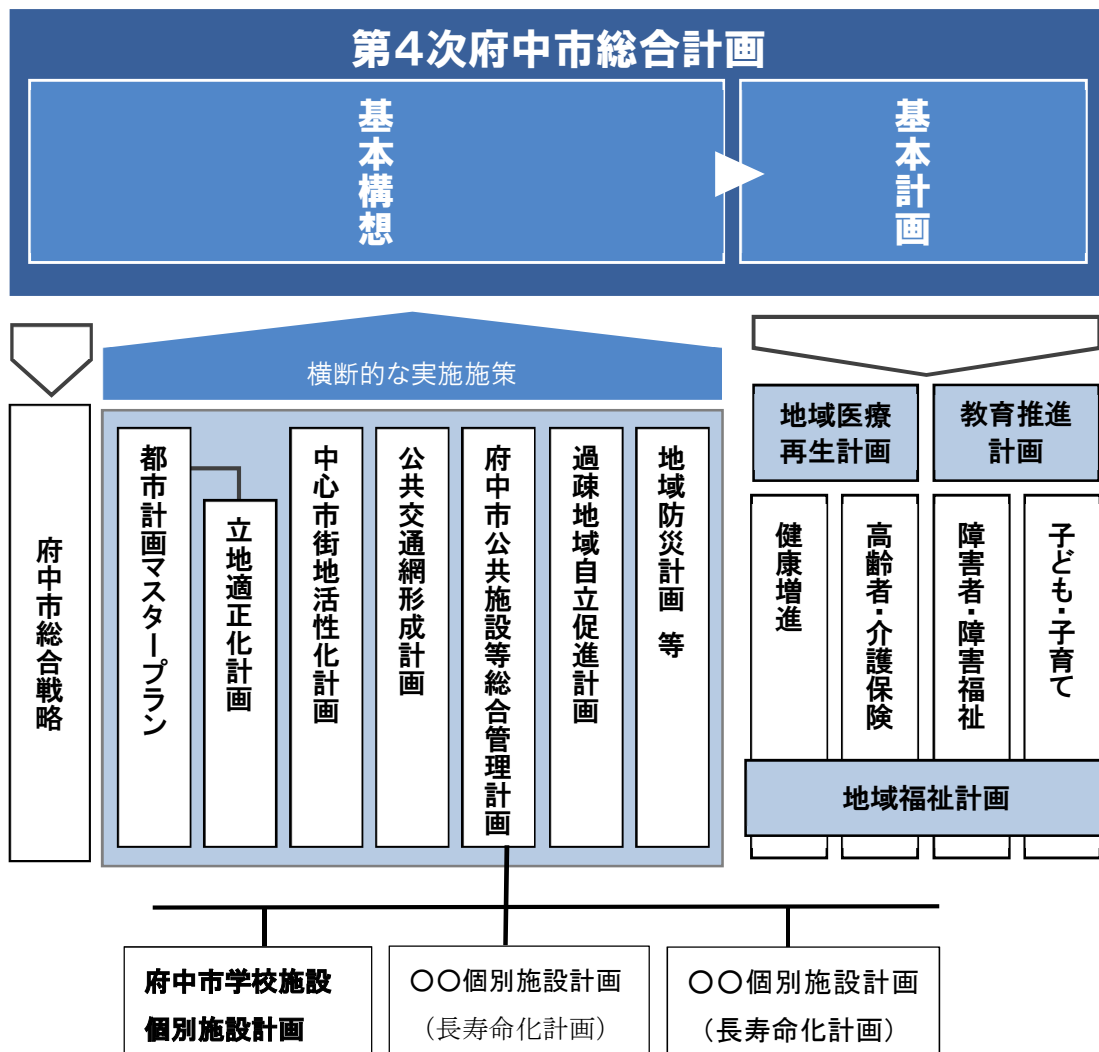
また、府中市における計画の位置づけとしては、「第4次府中市総合計画」に基づいた「府中市公共施設等総合管理計画」の個別施設計画になります。

(インフラ長寿命化基本計画の体系)



「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」より

(府中市における計画の位置づけ)



(第4次府中市総合計画より)

(3) 学校施設個別施設計画期間

計画策定期間は、中長期的な維持管理に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化が必要なために、平成30年度からの40年間の長期方針とPDCAサイクルの構築により5年間の具体的な整備計画を立て継続的に見直し・変更して計画を実施します。

(4) 計画対象施設

計画における対象施設は、次のとおりとする。

学校施設一覧

平成30年5月1日現在

名 称	住 所	児童数(人)	学級数 (学級)
1 国府小学校	府中市高木町617番地	347	15
2 栗生小学校	府中市栗柄町3056番地	133	8
3 旭小学校	府中市須町610番地	220	9
4 南小学校	府中市用土町444番地	120	9
5 上下北小学校	府中市上下町上下1881番地1	119	8
6 上下南小学校	府中市上下町矢多田171番地	55	6
7 府中学園 前期	府中市元町576番地1	578	23
8 府中明郷学園 前期	府中市篠根町656番地	192	8
小学校及び義務教育学校前期課程計		1764	86

1 第一中学校	府中市用土町463番地	400	15
2 上下中学校	府中市上下町上下915番地	112	4
3 府中学園 後期	府中市元町576番地1	313	12
4 府中明郷学園 後期	府中市篠根町656番地	107	5
中学校及び義務教育学校後期課程計		932	36

※義務教育学校は、前期課程と後期課程で児童生徒数を別計上しています。

第2章 学校施設における基本方針

(1)「学びプラン」(府中市教育推進計画)における方針

府中市においては、「未来へはばたく人づくり 生涯にわたって学びあえるまち府中」をテーマとして、教育委員会が所管する事項を広く全般に渡って、「まちづくり」との関連も考慮した、教育の振興のための施策に関する基本的な計画である府中市教育推進計画を平成25年3月に策定しています。その中で学校施設は「安全・安心な教育環境づくり」を施策の柱として、安全・安心な学校づくりを基本方針として計画に反映させています。

学びプラン(府中市教育推進計画) 政策の柱の概要

I 小中一貫教育を推進し、志を高く持ち、たくましく生き抜く力の養成

基本方針

- 1 知・徳・体のバランスの取れた府中っ子の育成
- 2 夢や志を育み、社会を生き抜く力の育成
- 3 魅力ある学校づくり

II 伝統と文化を継承し、未来を拓く、きらめく人材の養成

基本方針

- 1 郷土の歴史を学び、伝統と文化を継承
- 2 豊かな心を育む芸術文化活動の推進

III 学びあえる地域社会の形成

基本方針

- 1 家庭教育力の強化・充実
- 2 学校・家庭・地域等の連携の強化・充実
- 3 魅力あふれる生涯学習環境の整備
- 4 市民が誇りを持てる教育のまちづくりの推進

IV 安全・安心な教育環境づくり

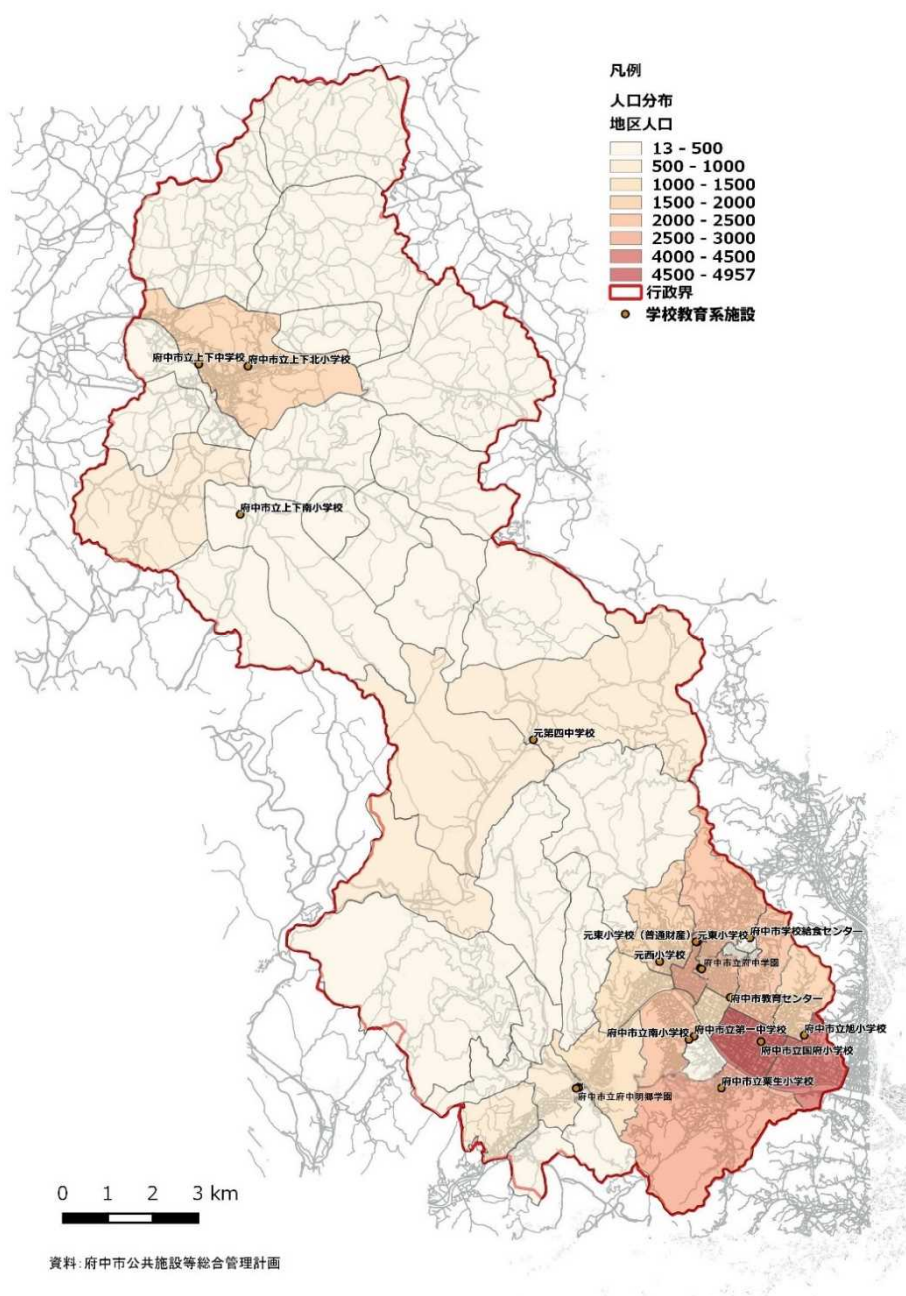
基本方針

- 1 安全・安心な学校づくり
- 2 安全・安心な食環境づくり
- 3 安全・安心で活用しやすい社会教育施設づくり

(2) 府中市公共施設等総合管理計画における方針

・学校教育系施設の方針

基本方針	内 容
数量に関する 基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校教育系施設は統廃合が進んでおり、数量については現状を維持する。 ● 旧校舎については、周辺施設との関係を踏まえ、廃止若しくは、統廃合時の核施設とする。
品質に関する 基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもが日常的に使用する施設であるので、定期的な点検を行ない、予防保全型管理により施設の安全性を確保する。
コストに関する 基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ● 水道光熱費の縮減のため、省エネルギー化を図る。



（３）府中市公共施設等総合管理計画における維持管理・修繕・更新等方針

①維持管理・修繕の実施方針

修繕や小規模改修に対しては、役割の分担を決めて速やかな対応ができる体制を構築します。

維持管理及び修繕を自主的に管理し、計画的・効率的に行うことによって、維持管理費・修繕費を平準化し、建物に要するトータルコストの縮減を目指します。

②更新・改修の実施方針

建物の長寿命化を図る上で、不具合が発生する度に対応する事後保全型の管理ではなく、実行計画を策定し計画的に更新・改修を実施していく予防保全型の管理を行うことが重要です。また、施設の経年変化には、法令の改正による既存不適格の発生も含まれるので、適法な管理が必要となります。

建物を更新しないで長期にわたって有効に活用するためには、建築の基本性能を利用目的に合わせた最適な状態に維持あるいは向上させることが必要となります。そのため、インフィル（内装、設備など）を適切なタイミングで簡易に診断し、計画的に保全していくことが不可欠です。総合管理計画・アクションプランの中の具体的な計画となる長期修繕計画の策定、それまでの間に定期的な見直しを行う中期修繕・改修計画の展開が重要となります。

長期修繕計画では、診断による経年劣化対策のほかには市民ニーズに合わせた目標耐用年数に対応する中規模改修計画、大規模改修計画、さらに建物を長期間使用するための長寿命化改修計画を組み込むことが重要です。

公共施設を更新する理由には、施設の耐久性、不具合性、施設の規模（広さ・高さ）、使いやすさ及び陳腐化などがあるが、施設に求められる様々な性能面及び法令対応において要求水準を満足できない場合があるので、更新の際には種々の診断を行って更新の理由を明確にする必要があります。

施設を更新する場合は、まちづくりとの整合性を保ち公共施設のコンパクト化や効率化の観点から、土地や建物について、単独更新以外の統合や複合化について検討を行います。

③安全確保の実施方針

公共施設における安全確保は、利用者の安全を確保し、資産や情報の保全を目的とした要件です。万一の事故・事件・災害に遭遇したときに損害を最小限にとどめ迅速に復旧する体制の構築を目指します。施設の安全性については、点検・診断結果に応じて適切に判定し、早期に危険を察知すると同時に、対応を実施することを目指します。

④耐震化の実施方針

本市では、学校教育施設や子育て支援施設等を中心として既存建築物について耐震診断を行っています。昭和 56 年（1981 年）以前の建物（旧耐震基準）について順次計画的に耐震診断を実施し、必要な場合は、耐震補強工事等を実施しています。

今後、耐震診断の未実施の施設については、早期に診断を行い、順次対策をとることとします。

⑤長寿命化の実施方針

施設の長寿命化にあたっては、以下の2つの方針により実施します。

総合的かつ計画的な管理

診断と改善に重点を置いた総合的かつ計画的な管理に基づく予防保全によって、公共施設等の長寿命化を図ります。総合的かつ計画的な管理とは、点検・保守・修繕を計画的にきめ細かく行い、公共施設等を適正な状況に保ち、さらに定期的に施設診断を行い、小規模改修工事を行って不具合箇所を是正することです。

計画的な保全・長寿命化計画

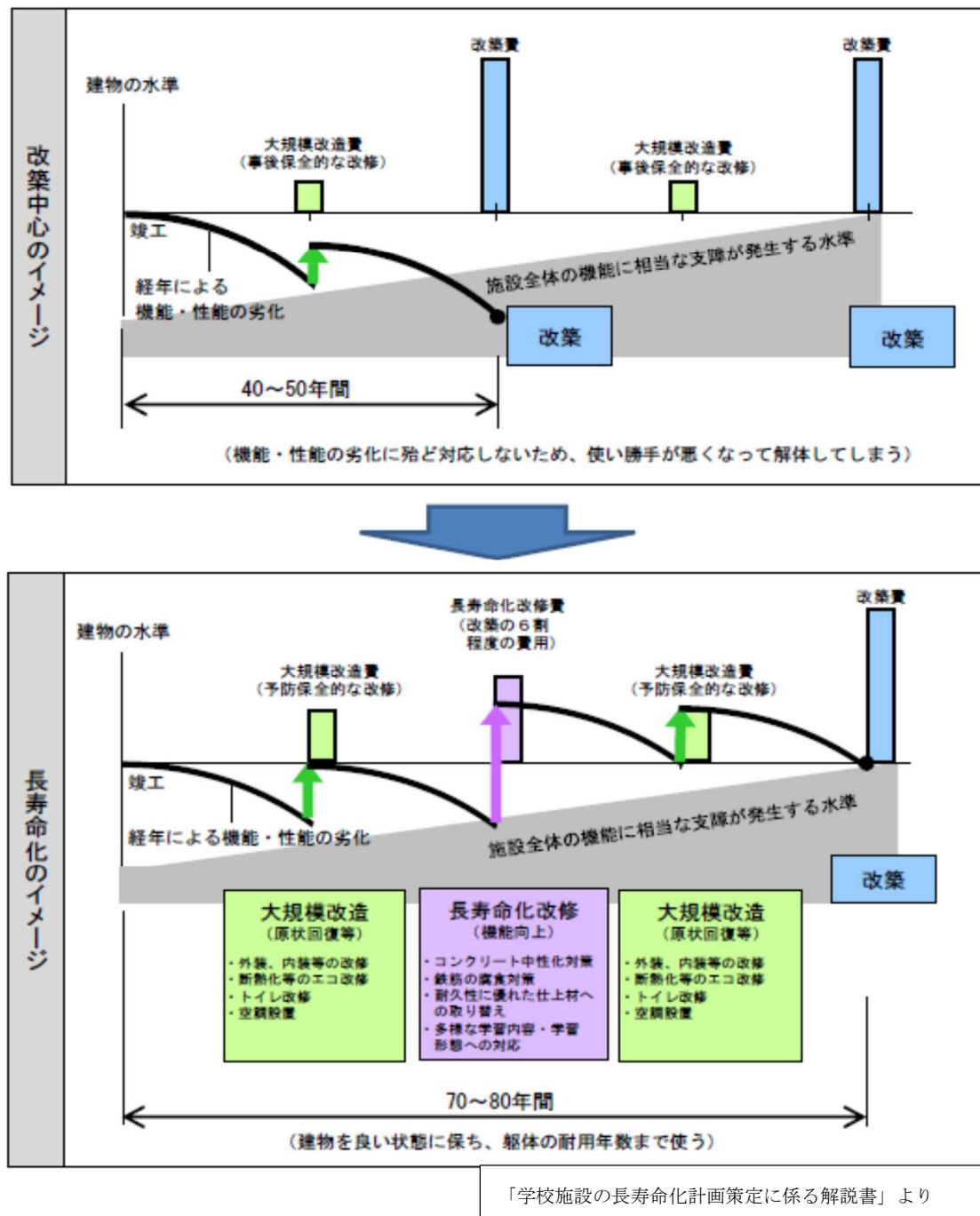
建設から一定期間は、小規模な補修や点検・保守を定期的に行うことによって、性能・機能を初期性能あるいは許容できるレベル以上に保つことができます。しかし、建設後相当年程度経過すると点検・保守による修繕・小規模改修工事では、性能・機能が許容できるレベルを維持できなくなり、大規模改修工事が必要となる。要求性能レベルは通常時間が経つにつれて上昇するため、要求性能レベルの変化を視野に入れた改修工事（改善）を行います。

▼長寿命化における経過年数と機能・性能の概念図



■改善にあたる内容 <ul style="list-style-type: none"> ・屋上断熱防水 ・外装材のグレードアップ ・給湯設備設置 ・バリアフリー化 ・階段手すり設置 etc... 	■修繕にあたる内容 <ul style="list-style-type: none"> ・外装塗り替え ・屋上防水 ・クロス・タイル張替え ・畳表替え etc... 	■補修にあたる内容 <ul style="list-style-type: none"> ・雨漏り補修 ・外壁・内壁の部分補修 etc...
--	--	---

改築中心から長寿命化への転換イメージ



⑥耐用年数の設定

目標耐用年数50～80年（普通品質）（日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」）に設定し、目標耐用年数を普通品質50～80年と設定します。「府中市公共施設等総合管理計画」の基本方針に基づき、予防保全型管理を取り入れながら計画的に修繕を行うことで品質を向上させ、施設利用者の安全性を確保しながら、物理的に使用可能な期

間を延ばすことによって財政負担を軽減し、耐用年数を改築・要調査について60年、長寿命化について80年改築で検討します。

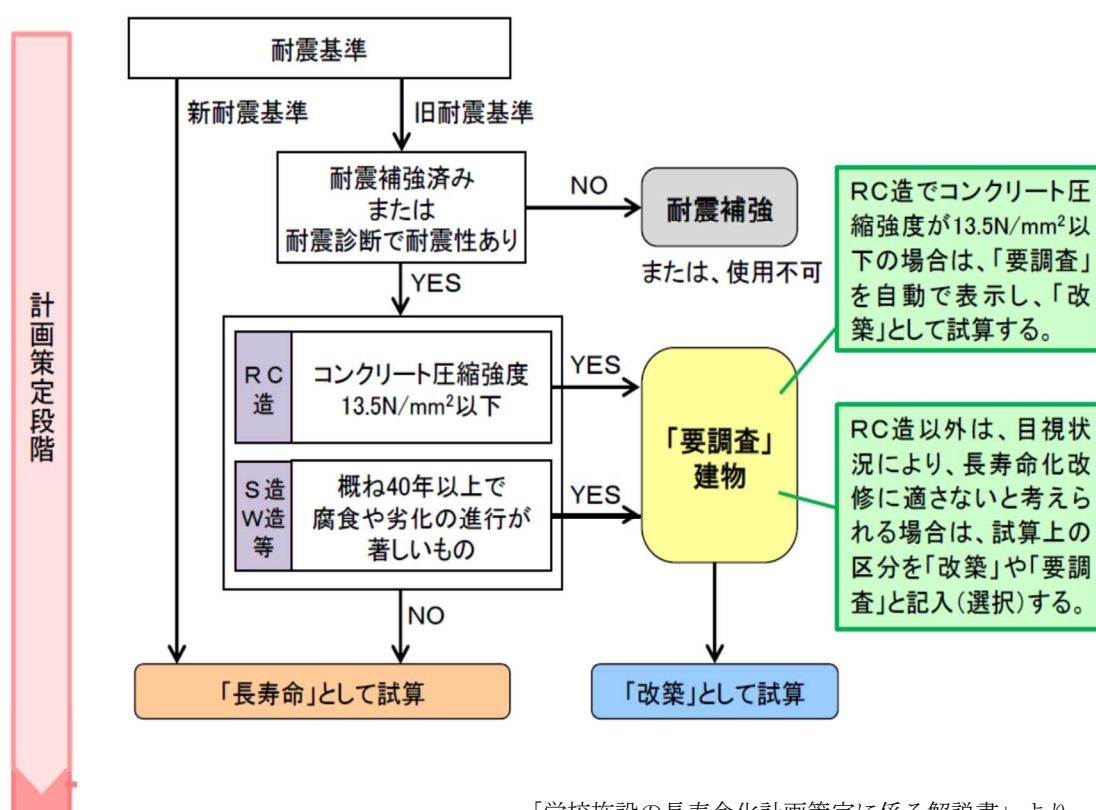
⑦更新費用の設定

建設時より30年後に大規模改修を行い、60年間使用して同床面積で建替えと仮定し、現時点で建設時より31年以上、50年未満の施設については、今後10年間で均等に大規模改修を行うと仮定して、更新費は床面積に下表の単価を乗じます。

	大規模改修	建替え
市民文化系施設	25 万円/㎡	40 万円/㎡
社会教育系施設	25 万円/㎡	40 万円/㎡
スポーツ・レクリエーション系施設	20 万円/㎡	36 万円/㎡
産業系施設	25 万円/㎡	40 万円/㎡
学校教育系施設	17 万円/㎡	33 万円/㎡
子育て支援施設	17 万円/㎡	33 万円/㎡
保健・福祉施設	20 万円/㎡	36 万円/㎡
医療施設	25 万円/㎡	40 万円/㎡
行政系施設	25 万円/㎡	40 万円/㎡
公営住宅	17 万円/㎡	28 万円/㎡

⑨長寿命化の判定

長寿命化の判定フロー



（４）府中市公共施設等総合管理計画におけるフォローアップの実施方針

フォローアップ体制の構築のために、以下の２つの項目を方針とします。

PDCA サイクルの構築

策定した総合管理計画の適切な実行を確保するために、PDCA サイクル（計画→実行→チェック→改善）で監視し、問題が発生した場合には、それをフィードバックしていく体制の構築が必要となります。そこで、中長期的なスパンで工程表を作成し、誰が（どの部署が）、いつ、どのような対応をしていくのかなど、具体的なスケジュールを作成します。

▼工程表のイメージ



チェック及びフィードバック体制の構築

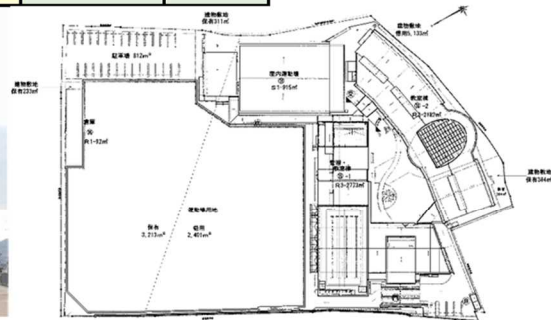
総合管理計画を段階的にチェックする体制の構築を図ることを検討します。市民にとって“適切な負担度合”や“必要な施設は何か”などを判断し、必要に応じて計画内容の修正などを行います。

第3章 学校の状況と課題

(1) 学校の状況

小学校（平成30年5月1日現在）

名 称	住 所	児童数(人)	学級数 (学級)
1 国府小学校	府中市高木町617番地	347	15



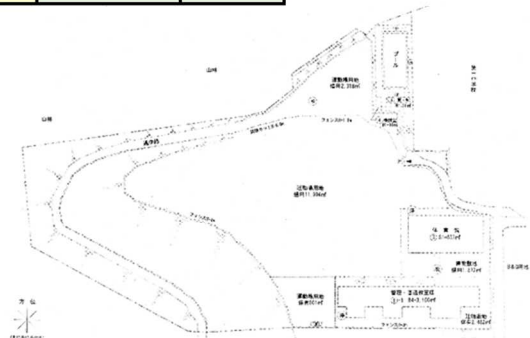
名 称	住 所	児童数(人)	学級数 (学級)
2 栗生小学校	府中市栗柄町3056番地	133	8



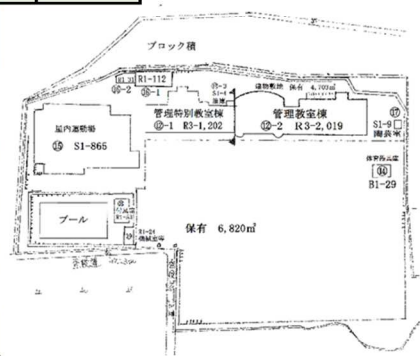
名 称	住 所	児童数(人)	学級数 (学級)
3 旭小学校	府中市須町610番地	220	9



名 称	住 所	児童数(人)	学級数 (学級)
4 南小学校	府中市用土町444番地	120	9



名 称	住 所	児童数(人)	学級数 (学級)
5 上下北小学校	府中市上下町上下1881番地1	119	8

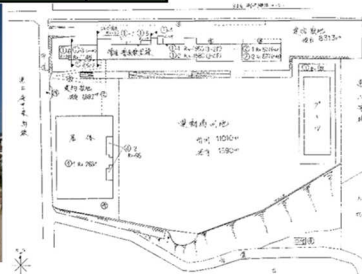


名 称	住 所	児童数(人)	学級数 (学級)
6 上下南小学校	府中市上下町矢多田171番地	55	6



中学校（平成30年5月1日現在）

名 称	住 所	児童数(人)	学級数 (学級)
1 第一中学校	府中市用土町463番地	400	15



名 称	住 所	児童数(人)	学級数 (学級)
2 上下中学校	府中市上下町上下915番地	112	4



義務教育学校（平成30年5月1日現在）

名 称	住 所	児童数(人)	学級数 (学級)
1 府中学園 前期	府中市元町576番地1	578	23
1 府中学園 後期	府中市元町576番地1	313	12

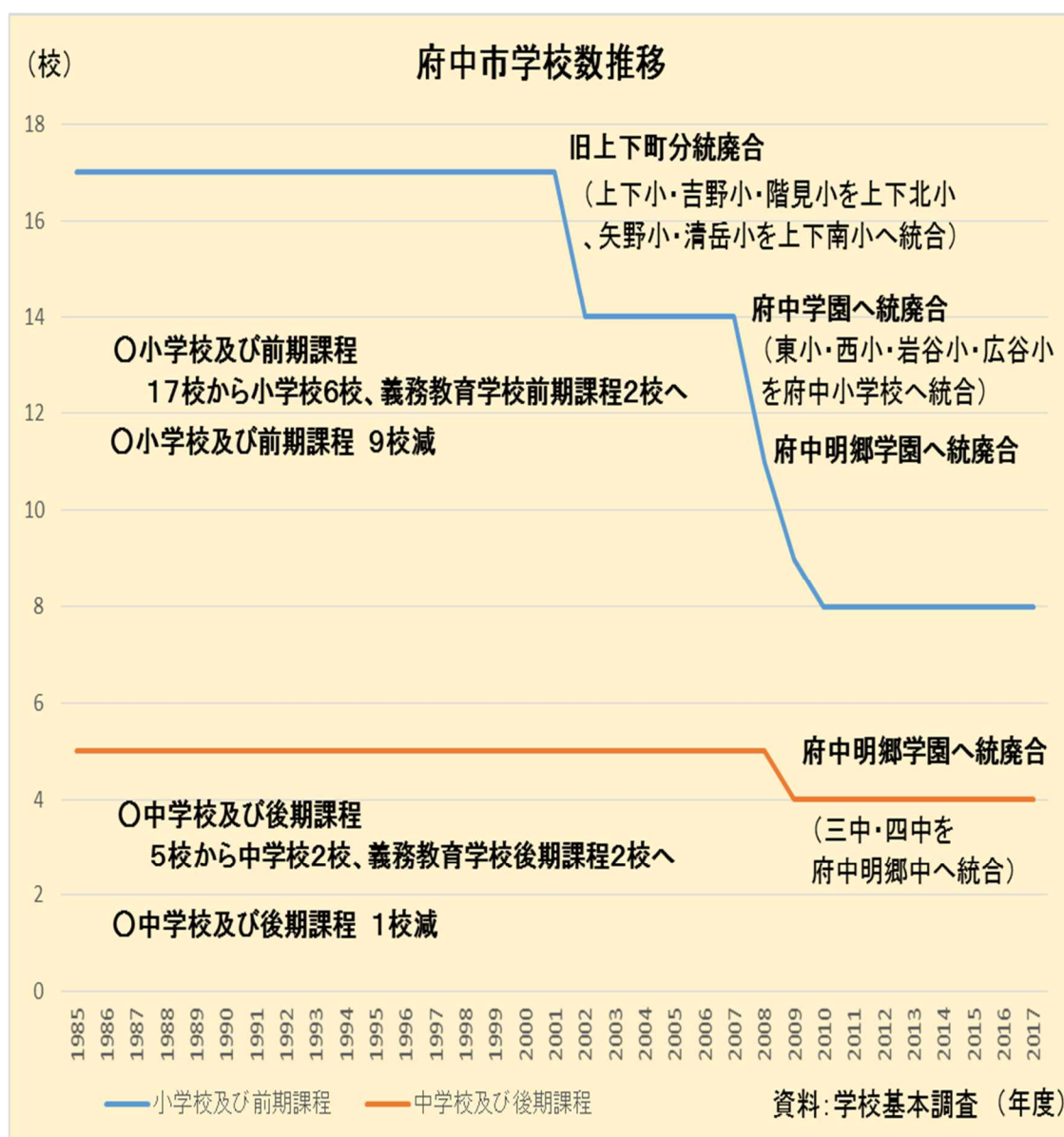


名 称	住 所	児童数(人)	学級数 (学級)
2 府中明郷学園 前期	府中市篠根町656番地	192	8
2 府中明郷学園 後期	府中市篠根町656番地	107	5



（２）学校の統廃合について

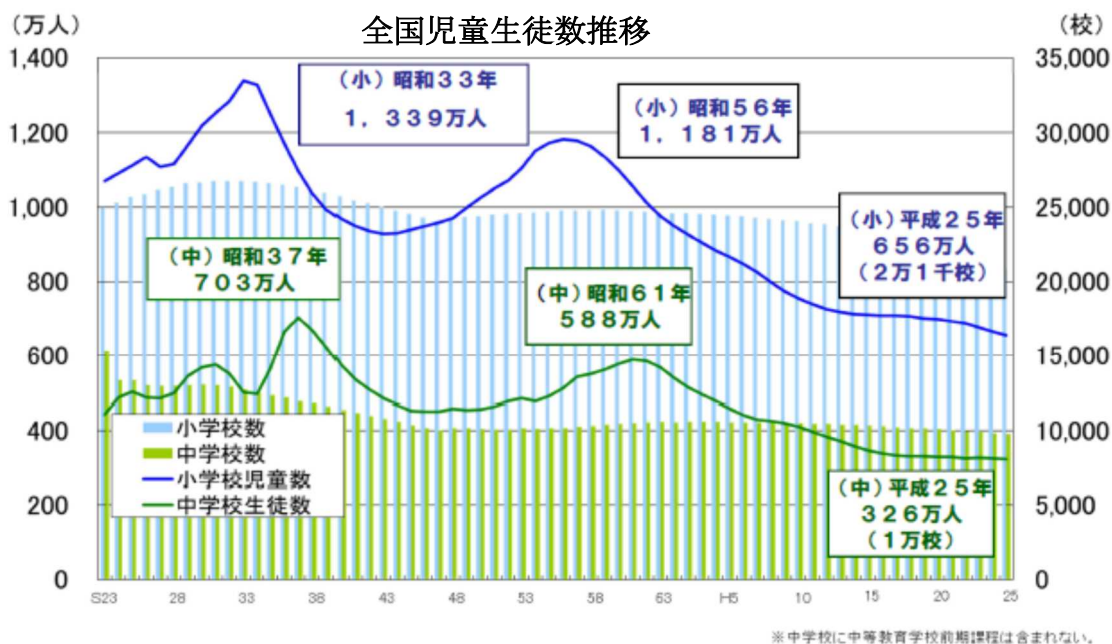
府中市立の小学校及び義務教育学校前期課程では、昭和６０年から平成２９年までに１７校から８校に減少し、中学校及び義務教育学校後期課程では、５校から４校に減少しています。文部科学省より「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を平成２７年１月に策定して、各教育委員会に通知されました。府中市では、早期に次の通り小中学校の適正規模・適正配置に取り組みを行いました。今後におきましても、児童生徒数の推移によっては、新たな適正規模・適正配置の検討も考慮する必要があります。



※平成２９年４月１日から府中学園、府中明郷学園は、義務教育学校へ移行

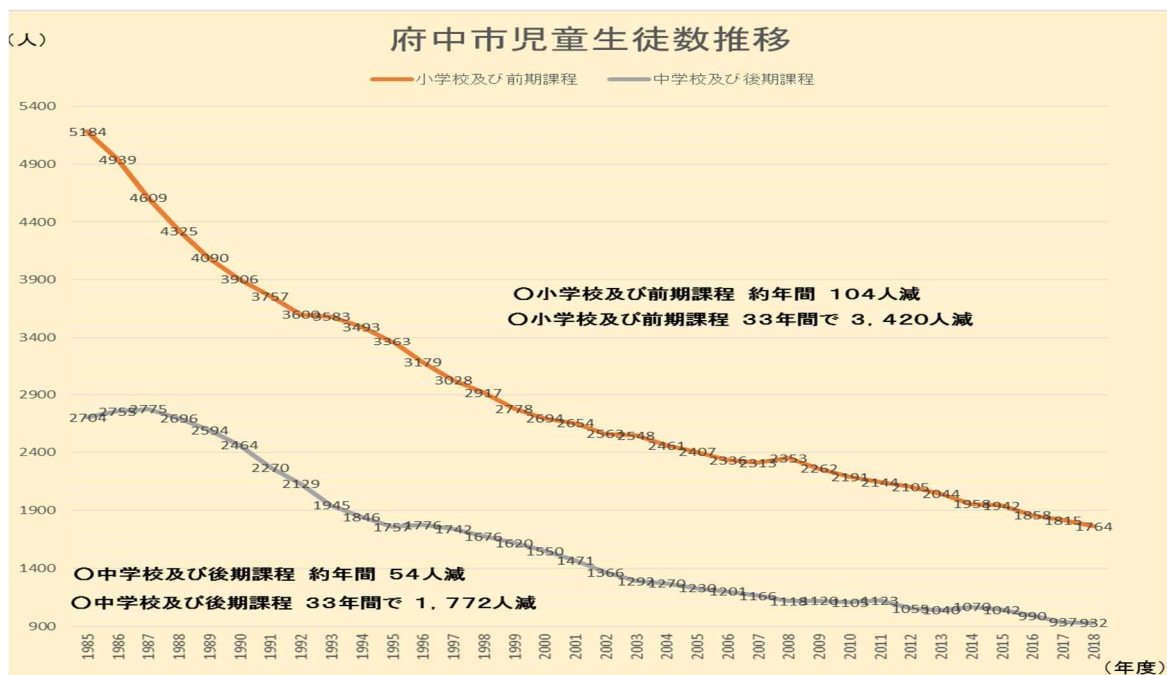
(3) 児童生徒数の変化

全国の小・中学校の推移では、小学校が昭和56年（1981年）、中学校が昭和61年（1986年）から減少しています。府中市の小・中学校及び義務教育学校の児童生徒数推移では、児童生徒の合計が昭和60年（1985年）の7,888人から平成30年（2018年）の2,696人に減少し、33年間で5,192人もの減少がみられ、年平均157人程度の減少がみられます。



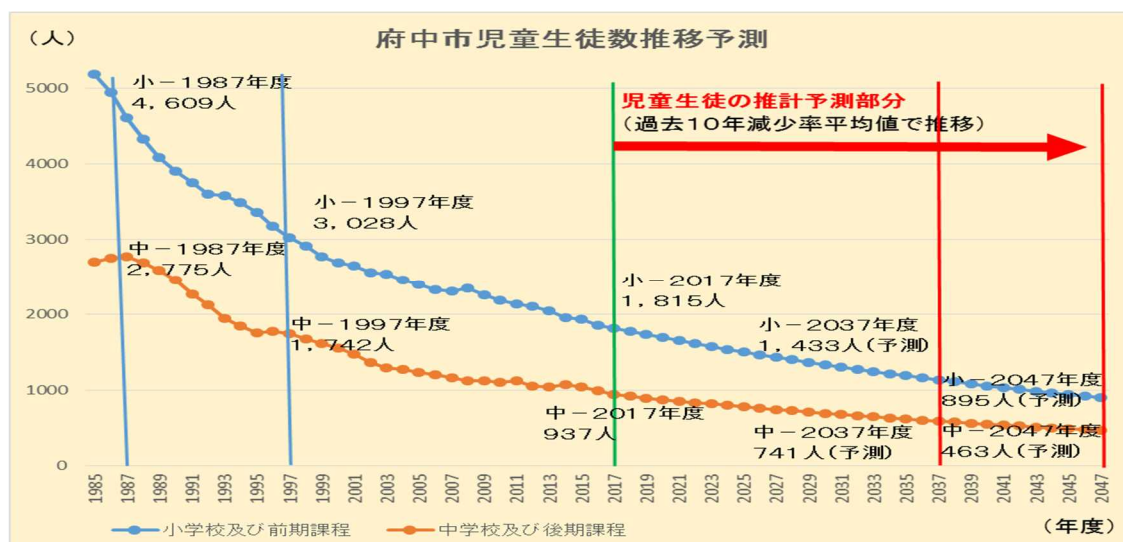
(出典) 学校基本調査（平成25年度）に基づき作成

文部科学省インフラ長寿化計画（行動計画）より



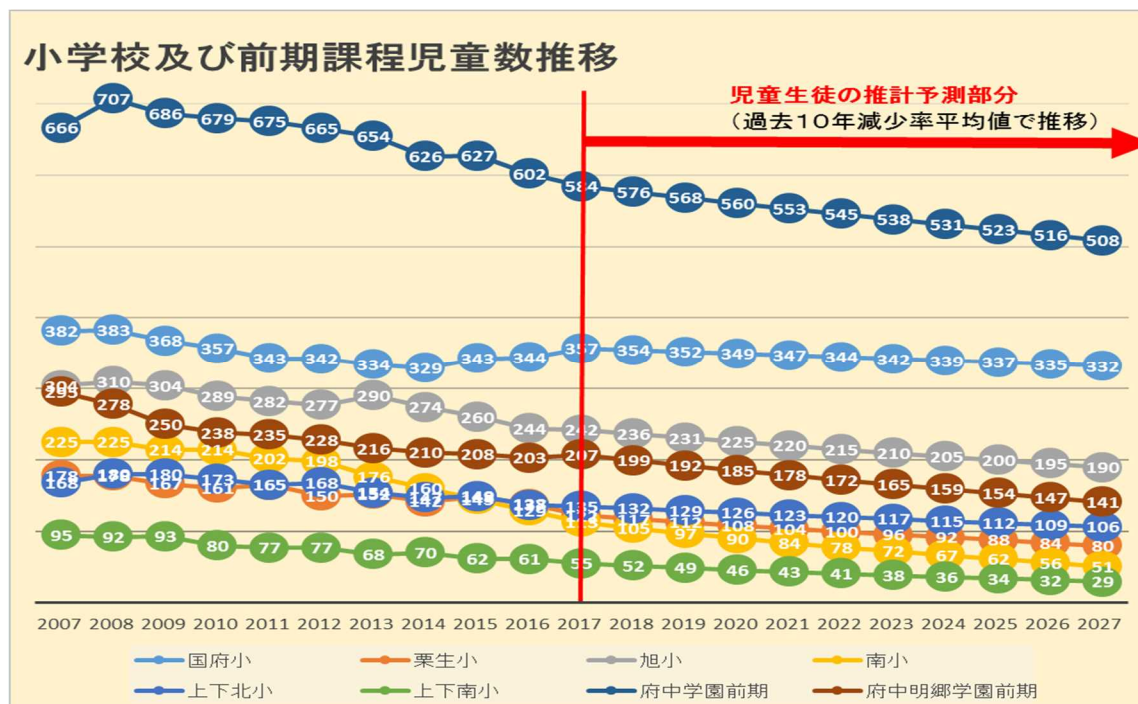
(4) 児童生徒数の予測

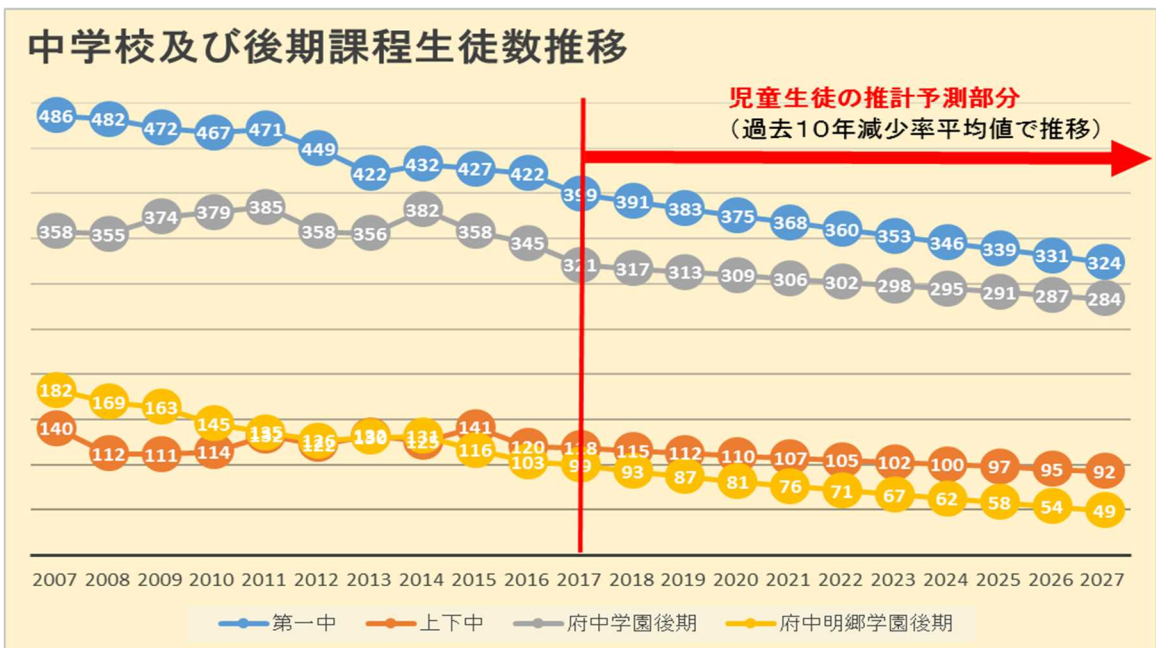
今後の府中市児童生徒数推移においては、過去10年の減少率の平均で推移すると仮定して、児童生徒の合計が2017年の2,752人から2047年の1,358人に推移し、1,394人の減少が想定されます。また、年平均46人の減少となり、大幅な減少が予想されます。



(5) 児童生徒数の学校ごとの予測

各学校の府中市児童生徒数推移についても、国府小学校以外は人口及び児童生徒数の推移と同じように減少が予想されます。





(6) 児童生徒数減少の検討

府中市においては、すでに統廃合を行っています。今後の少子化の進行により、小規模校の利点と課題を考慮して学校の規模適正化・適正配置等や小規模校の充実策等の検討を進める必要があります。

また、学びの場である公立学校を拠点として地域コミュニティの形成推進する観点や、人口減少による利用需要の変化を見据えた公共施設の最適な配置の実現の観点から、校舎・体育館の長寿命化改修に併せて、地域コミュニティの核となる活力ある学校づくりを進めるために、学校と社会教育施設との複合化についても検討が必要であると考えられる。

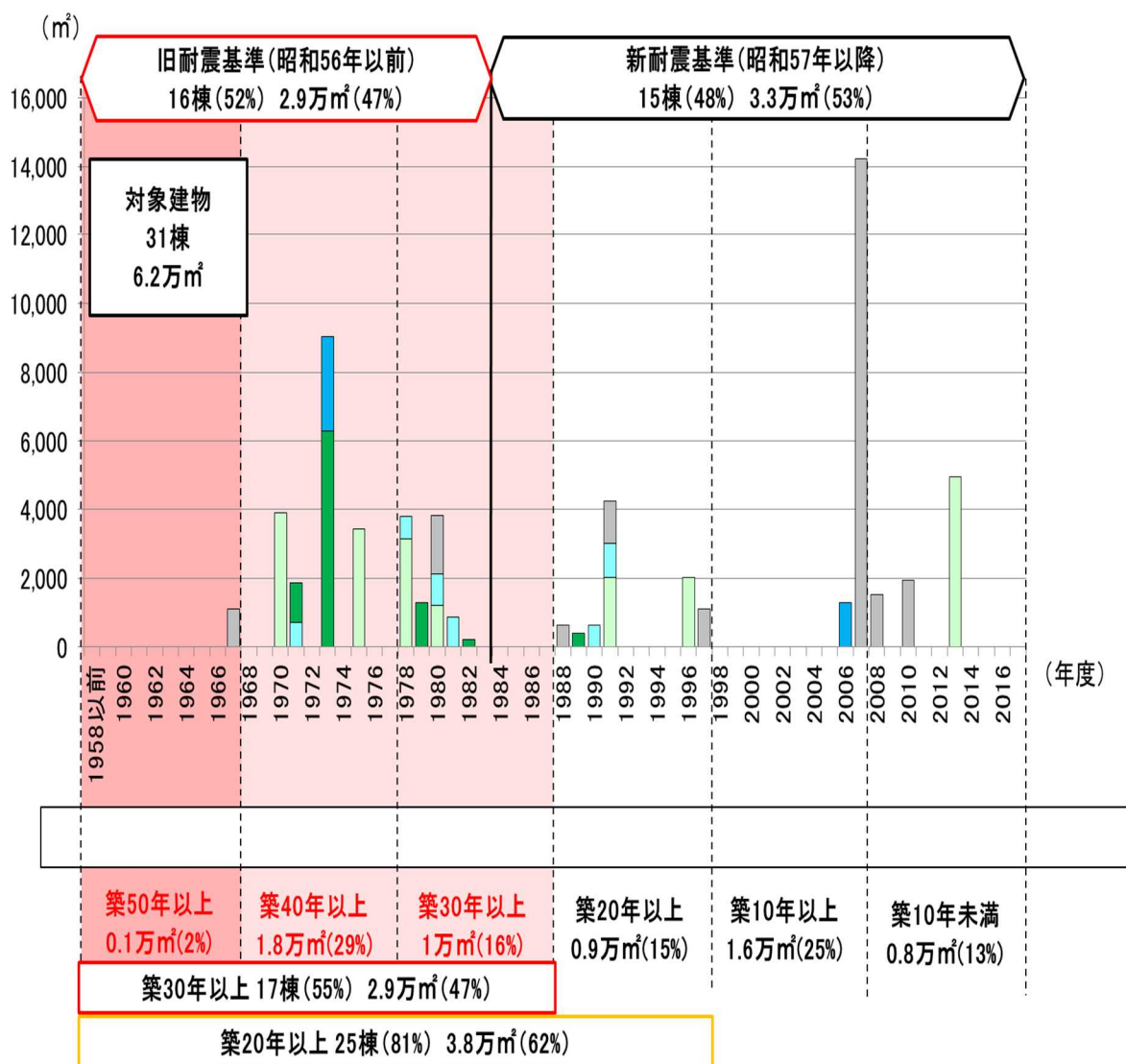
第4章 学校施設の劣化状況

(1) 学校施設（校舎・屋内運動場）整備状況

学校施設整備において、昭和40～50年台の高度成長期に建てられた学校が多く、築30年以上経過する棟が50%で、延床面積が47%ある。以前は築40年くらいで改築を行っていましたが、人口減少と改築時期集中のコスト増大による府中市の財政負担軽減のためより効率的に既存施設を活用した維持管理計画が必要となります。

また、平成19年度（2007年度）に大幅に建設が増えているのは、府中学園建設に伴うもので、続いて平成25年度（2013年度）に国府小学校の建替えを行っています。

築年別整備状況



(2) 建物の基本情報

学校施設は、昭和40～50年代に建てられた建物が多くあり、旧耐震基準（赤色の部分）で建てられたものについては、耐震補強は完了しています。しかし、耐用年数を鉄筋コンクリートと造を60年、鉄骨造を40年とした耐用年数からの老朽化率は高く、屋内運動場においては100%を超えているものもあり早急な検討が必要です。

建物基本情報															
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年 数	老朽 化率 (%)	改修 年度	改修後 年数
					学校種別	建物用途				西暦	和暦				
1	805	国府小学校	屋内運動場	11	小学校	体育館	S	1	915	1980	S55	37	92.5	2012	5
2	805	国府小学校	校舎	15-1・2	小学校	校舎	RC	3	4,955	2013	H25	4	8.5		
3	806	栗生小学校	校舎	15-1	小学校	校舎	RC	4	3,422	1975	S50	42	70.0	2013	4
4	806	栗生小学校	屋内運動場	17	小学校	体育館	S	1	633	1990	H2	27	67.5		
5	811	旭小学校	南棟校舎	1-1・2・3・4	小学校	校舎	RC	2	1,508	1970	S45	47	78.3	2013	4
6	811	旭小学校	北棟校舎	2-1・2・3・4	小学校	校舎	RC	3	2,397	1970	S45	47	78.3	2013	4
7	811	旭小学校	屋内運動場	6-1	小学校	体育館	S	1	727	1971	S46	46	115.0		
8	812	南小学校	校舎	1-1	小学校	校舎	RC	4	3,150	1978	S53	39	65.0	2013	4
9	812	南小学校	屋内運動場	3	小学校	体育館	S	1	653	1978	S53	39	97.5	2010	7
10	2365	上下北小学校	校舎1	12-1	小学校	校舎	RC	3	1,202	1980	S55	37	61.7	2002	15
11	2365	上下北小学校	校舎2	12-2	小学校	校舎	RC	3	2,019	1996	H8	21	35.0		
12	2365	上下北小学校	屋内運動場	15	小学校	体育館	S	1	865	1981	S56	36	90.0	2005	12
13	2366	上下南小学校	屋内運動場	9-1・2	小学校	体育館	S	1	994	1991	H3	26	65.0		
14	2366	上下南小学校	校舎	10、13	小学校	校舎	RC	3	2,023	1991	H3	26	43.3		
15	3881	第一中学校	校舎1	1-1・2・3・4・5・6・7・8	中学校	校舎	RC	2	5,154	1973	S48	44	73.3	2005	12
16	3881	第一中学校	校舎2	2-1・2	中学校	校舎	RC	2	1,154	1973	S48	44	73.3	2004	13
17	3881	第一中学校	屋内運動場	4-1・2	中学校	体育館	S	2	2,729	1973	S48	44	110.0	2004	13
18	4696	上下中学校	管理教室棟1	1	中学校	校舎	RC	2	1,131	1971	S46	46	76.7	2002	15
19	4696	上下中学校	管理教室棟2	16-1・2	中学校	校舎	RC	3	1,292	1979	S54	38	63.3	2002	15
20	4696	上下中学校	部室	20	中学校	校舎	S	2	210	1982	S57	35	87.5		
21	4696	上下中学校	特別教室	22	中学校	校舎	RC	1	400	1989	H元	28	46.7		
22	4696	上下中学校	屋内運動場	24-1・2	中学校	体育館	S	1	1,295	2006	H18	11	32.4		
23	DJ600	府中学園	校舎	1・26	義務教育学校	校舎	RC	3	13,183	2007	H19	10	21.3		
24	DJ600	府中学園	屋内運動場(前)	2	義務教育学校	体育館	RC	3	1,036	2007	H19	10	21.3		
25	DJ600	府中学園	屋内運動場(後)	27	義務教育学校	体育館	RC	2	1,518	2008	H20	9	26.5		
26	DJ601	府中明郷学園	教室・特別教室棟1	1-1、21-1	義務教育学校	校舎	RC	3	1,097	1967	S42	50	83.3	2010	7
27	DJ601	府中明郷学園	教室・特別教室棟1	1-2、21-2	義務教育学校	校舎	RC	4	1,707	1980	S55	37	61.7	2010	7
28	DJ601	府中明郷学園	屋内運動場(前)	7	義務教育学校	体育館	S	1	641	1988	S63	29	72.5		
29	DJ601	府中明郷学園	管理・教室・特別教室棟	10、20	義務教育学校	校舎	RC	2	1,932	2010	H22	7	14.9		
30	DJ601	府中明郷学園	教室・特別教室棟2	12、13	義務教育学校	校舎	RC	3	1,223	1991	H3	26	43.3	2010	7
31	DJ601	府中明郷学園	屋内運動場(後)	15	義務教育学校	体育館	S	1	1,110	1997	H9	20	50.0		

※老朽化率＝築年数／処分制限期間×100

(平成29年5月1日現在)

※根拠:「補助事業者等が補助事業等により取得した財産のうち処分を制限する財産及び補助事業等により取得した財産の処分制限期間」(昭和60年3月5日文部省告示第28号)

(3) 建物の構造躯体の健全性及び劣化状況

躯体の健全性については、旭小学校北校舎のコンクリート圧縮強度が低いため、概ね築60年での改築を想定しています。そして、劣化状況評価におきまして、早期の改善が必要なC判定も多く、計画に反映する必要があります。

健全性及び劣化状況

A : 概ね良好 C : 広範囲に劣化
 : 築50年以上 : 築30年以上 B : 部分的に劣化 : 早急に対応する必要がある

建物基本情報				構造躯体の健全性						劣化状況評価					
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	耐震安全性			長寿命化判定			屋根・ 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度 (100点 満点)
				基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度 (N/mm ²)	試算上 の区分						
1	805	国府小学校	屋内運動場	旧	済	済	H22	17.6	長寿命	A	A	A	A	A	100
2	805	国府小学校	校舎	新	-	-			長寿命	A	A	A	A	A	100
3	806	栗生小学校	校舎	旧	済	済	H24	17.7	長寿命	B	A	C	C	C	60
4	806	栗生小学校	屋内運動場	新	-	-			要調査	B	B	B	B	B	75
5	811	旭小学校	南棟校舎	旧	済	済	H24	14.4	長寿命	B	A	C	C	B	64
6	811	旭小学校	北棟校舎	旧	済	済	H24	9.8	要調査	C	A	C	C	B	62
7	811	旭小学校	屋内運動場	旧	済	済	H18		要調査	B	B	C	C	C	53
8	812	南小学校	校舎	旧	済	済	H24	18.1	長寿命	B	A	B	B	B	82
9	812	南小学校	屋内運動場	旧	済	済	H22	24	長寿命	A	A	A	A	A	100
10	2365	上下北小学校	校舎1	旧	済	済	H15	20	長寿命	B	B	B	B	B	75
11	2365	上下北小学校	校舎2	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
12	2365	上下北小学校	屋内運動場	旧	済	済	H15	30.5	長寿命	C	B	B	B	B	72
13	2366	上下南小学校	屋内運動場	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
14	2366	上下南小学校	校舎	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
15	3881	第一中学校	校舎1	旧	済	済	H16	21	長寿命	B	B	B	B	B	75
16	3881	第一中学校	校舎2	旧	済	済	H16	21.4	長寿命	B	B	B	B	B	75
17	3881	第一中学校	屋内運動場	旧	済	済	H16	17.6	要調査	C	C	C	C	B	44
18	4696	上下中学校	管理教室棟1	旧	済	済	H14	16.5	長寿命	B	B	C	C	B	57
19	4696	上下中学校	管理教室棟2	旧	済	済	H14	27.5	長寿命	B	B	B	B	B	75
20	4696	上下中学校	部室	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
21	4696	上下中学校	特別教室	新	-	-			長寿命	B	B	C	B	B	62
22	4696	上下中学校	屋内運動場	新	-	-			長寿命	A	A	A	A	A	100
23	DJ600	府中学園	校舎	新	-	-			長寿命	A	A	A	A	A	100
24	DJ600	府中学園	屋内運動場(前)	新	-	-			長寿命	A	A	A	A	A	100
25	DJ600	府中学園	屋内運動場(後)	新	-	-			長寿命	A	A	A	A	A	100
26	DJ601	府中明郷学園	教室・特別教室棟1	旧	済	済	H21	14.8	長寿命	A	B	A	A	A	93
27	DJ601	府中明郷学園	教室・特別教室棟1	旧	済	済	H21	28.2	長寿命	A	B	A	A	A	93
28	DJ601	府中明郷学園	屋内運動場(前)	新	-	-			長寿命	B	B	B	B	B	75
29	DJ601	府中明郷学園	管理・教室・特別教室棟	新	-	-			長寿命	A	A	A	A	A	100
30	DJ601	府中明郷学園	教室・特別教室棟2	新	-	-			長寿命	C	B	A	A	A	88
31	DJ601	府中明郷学園	屋内運動場(後)	新	-	-			長寿命	C	C	B	B	B	62

(4) 学校プールの劣化状況

学校プールにおいては、耐用年数を経過してなお使用している施設が多く、劣化により中学校プールで使用を中止した施設もあります。

また、南小学校プールでは、地盤沈下によりプール壁面や底面が割れて簡易補修して使用している現状です。上下南小学校プールにつきましては、地域水道施設が小規模であるためプールへの1日当りの供給水量に制限があり、水質の維持において検討の必要があります。今後、築40年を超えた施設について、児童数の推移を検討しながら耐震補強又は改築を検討していきます。

学校プール

平成29年5月1日現在

学校名	縦×横	水面積	設置年度 (西暦)	設置年度 (和暦)	材質	経過年数	老朽化率(%)	プール 劣化	プール サイド	附属 建物	電気	機器	判定
国府小	25×11	275	2012	H24	FRP	5	16.7	A	A	A	A	A	継続
栗生小	25×10.2	255	1975	S50	RC	42	140.0	B	C	B	B	B	耐震・改築
府中明郷 前	25×10	250	1996	H8	RC	21	70.0	B	B	B	B	B	継続
旭小	25×12	300	1970	S45	RC	47	156.7	B	B	C	B	B	耐震・改築
南小	25×12	300	1978	S53	RC	39	130.0	C	C	C	B	B	耐震・改築
上下北小	25×13	325	2004	H16	FRP	13	43.3	A	A	A	A	A	継続
上下南小	25×8.2	205	1976	S51	RC	41	136.7	B	B	B	B	B	要調査
一中	50×13	650	1972	S47	RC	45	150.0	C	C	C	C	C	中止中
府中明郷 後	25×11.5	285	2009	H21	FRP	8	26.7	A	A	A	A	A	継続
上下中	25×15	375	1975	S50	RC	42	140.0	C	C	B	B	C	中止中
府中学園	25×17	425	2007	H19	SUS	10	33.3	A	A	A	A	A	継続

※プール耐用年数30年で設定

※根拠:「補助事業者等が補助事業等により取得した財産のうち処分を制限する財産及び補助事業等により取得した財産の処分制限期間」(昭和60年3月5日文部省告示第28号)

※根拠:「補助事業者等が補助事業等により取得し、又は効用の増加した財産のうち処分を制限する財産及び補助事業等により取得し、又は効用の増加した財産の処分制限期間」(平成14年3月25日文部科学省告示第53号)

(5) 維持管理の項目・手法等

劣化状況調査においては、次の様式を用いて5年ごとに点検を実施して、調査や修理の方法等を検討して次の5年計画に反映して、各学校の維持管理を効率的・効果的に実施します。

通し番号					
学校名			学校番号		調査日
建物名				記入者	
棟番号			建築年度	年度(年度)	
構造種別		延床面積	m ²	階数	地上 階 地下 階

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)	箇所数	特記事項	評価
		年度	工事内容				
1 屋根 屋上	<input type="checkbox"/> アスファルト保護防水			<input type="checkbox"/> 降雨時に雨漏りがある			
	<input type="checkbox"/> アスファルト露出防水			<input type="checkbox"/> 天井等に雨漏り痕がある			
	<input type="checkbox"/> シート防水、塗膜防水			<input type="checkbox"/> 防水層に膨れ・破れ等がある			
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(長尺金属板、折板)			<input type="checkbox"/> 屋根葺材に錆・損傷がある			
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(スレート、瓦類)			<input type="checkbox"/> 笠木・立上り等に損傷がある			
	<input type="checkbox"/> その他の屋根 ()			<input type="checkbox"/> 樋やルーフトレを目視点検できない			
				<input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある			
2 外壁	<input type="checkbox"/> 塗仕上げ			<input type="checkbox"/> 鉄筋が見えているところがある			
	<input type="checkbox"/> タイル張り、石張り			<input type="checkbox"/> 外壁から漏水がある			
	<input type="checkbox"/> 金属系パネル			<input type="checkbox"/> 塗装の剥がれ			
	<input type="checkbox"/> コンクリート系パネル(ALC等)			<input type="checkbox"/> タイルや石が剥がれている			
	<input type="checkbox"/> その他の外壁 ()			<input type="checkbox"/> 大きな亀裂がある			
	<input type="checkbox"/> アルミ製サッシ			<input type="checkbox"/> 窓・ドアの廻りで漏水がある			
	<input type="checkbox"/> 鋼製サッシ			<input type="checkbox"/> 窓・ドアに錆・腐食・変形がある			
	<input type="checkbox"/> 断熱サッシ、省エネガラス			<input type="checkbox"/> 外部手すり等の錆・腐朽			
				<input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある			

部位	修繕・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	<input type="checkbox"/> 老朽改修			
	<input type="checkbox"/> エコ改修			
	<input type="checkbox"/> トイレ改修			
	<input type="checkbox"/> 法令適合			
	<input type="checkbox"/> 校内LAN			
	<input type="checkbox"/> 空調設置			
	<input type="checkbox"/> 障害児等対策			
	<input type="checkbox"/> 防犯対策			
	<input type="checkbox"/> 構造体の耐震対策			
4 電気設備	<input type="checkbox"/> 分電盤改修			
	<input type="checkbox"/> 配線等の敷設工事			
	<input type="checkbox"/> 昇降設備保守点検			
	<input type="checkbox"/> その他、電気設備改修工事			
5 機械設備	<input type="checkbox"/> 給水配管改修			
	<input type="checkbox"/> 排水配管改修			
	<input type="checkbox"/> 消防設備の点検			
	<input type="checkbox"/> その他、機械設備改修工事			

特記事項(改修工事内容や12条点検、消防点検など、各種点検等による指摘事項があれば、該当部位と指摘内容を記載)

	健全度
	0 / 100点

(「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」より)

(6) 屋上・屋根評価について

評価 仕様	A	B	C	D
アスファルト 保護防水	 <p>良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)</p>	 <p>部分的に、ひび割れ、変質、排水不良、目地シーリングの損傷がある。</p>	 <p>広範囲に、ひび割れ、変質、排水不良、土砂の堆積、雑草、目地シーリングの損傷が見られ、最上階天井に漏水痕がある。</p>	 <p>広範囲に、損壊、幅広のひび割れ、排水不良があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。</p>
アスファルト 露出防水	 <p>良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)</p>	 <p>部分的に、ふくれ、変質(摩耗)、排水不良がある。</p>	 <p>広範囲に、ひび割れ、変質(摩耗)、排水不良、土砂の堆積、雑草が見られ、最上階天井に漏水痕がある。</p>	 <p>広範囲に、破断、損壊、下地露出、幅広のひび割れがあり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。</p>
シート 防水	 <p>良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)</p>	 <p>部分的に、ふくれ、しわ、変質(摩耗)、排水不良がある。</p>	 <p>広範囲に、ふくれ、しわ、穴あき、変質(摩耗)、排水不良、土砂の堆積、雑草が見られ、最上階天井に漏水痕がある。</p>	 <p>広範囲に、破断、めくれ、下地露出があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。</p>
塗膜防水	 <p>良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)</p>	 <p>部分的に、ふくれ、しわ、変質(スポンジ状)、排水不良がある。</p>	 <p>広範囲に、ふくれ、しわ、穴あき、変質(摩耗)、排水不良、土砂の堆積、雑草が見られ、最上階天井に漏水痕がある。</p>	 <p>広範囲に、破断、めくれ、下地露出があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。</p>
金属板 (長尺、折板、平葺き)	 <p>良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)</p>	 <p>部分的に、塗装のはがれ、さび、変質、シーリング材のひび、金物のさびがある。</p>	 <p>広範囲に、塗装のはがれ、さび、変質、シーリング材のひび、取付金物のさび、部分的な腐食・損壊があり、最上階天井に漏水痕がある。</p>	 <p>広範囲に、さび、はがれ、腐食、取付金物の損壊があり、最上階天井に漏水が複数箇所ある。</p>




(「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」より)

(7) 外壁評価について

評価 仕様	A	B	C	D
塗り 仕上げ	 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、ひび割れ・変質・浮き・さび汁がある。	 広範囲に、ひび割れ・亀甲状のひび割れ・変質・浮き・剥がれ・さび汁があり、小規模な漏水がある。	 広範囲に、剥落・爆裂・幅広のひび割れがあり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。
タイル張り 石張り	 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、ひび割れ・変質・浮き・はらみ・さび汁・シーリング材のひびがある。	 広範囲に、ひび割れ・変質・浮き・はらみ・さび汁・シーリング材のひびがあり、小規模な漏水がある。	 広範囲に、剥落・爆裂・幅広のひび割れがあり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。
金属系 パネル	 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、さび・変質・シーリング材のひびがある。	 広範囲に、さび・変質・シーリング材のひび・取付金物のさびがあり、小規模な漏水がある。	 広範囲に、さび・腐食・ぐらつき・取付金物の腐食があり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。
セメント系 パネル	 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、ひび割れ・変質・欠損・シーリング材のひびがある。	 広範囲に、ひび割れ・変質・シーリング材のひび・取付金物のさびがあり、小規模な漏水がある。	 欠落・ぐらつき・取付金物の腐食・シーリング材の欠落があり、内部の床に水たまり、漏水が複数箇所ある。
窓 (サッシ)	 良好 (汚れている程度) (改修後10年以内)	 部分的に、変形・変質・シーリング材の硬化。	 全体的に、変形・変質・さび・シーリングの硬化・ひび割れが見られる。	 全体的に腐食・損壊・開閉不良があり、漏水がある。

(「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」より)

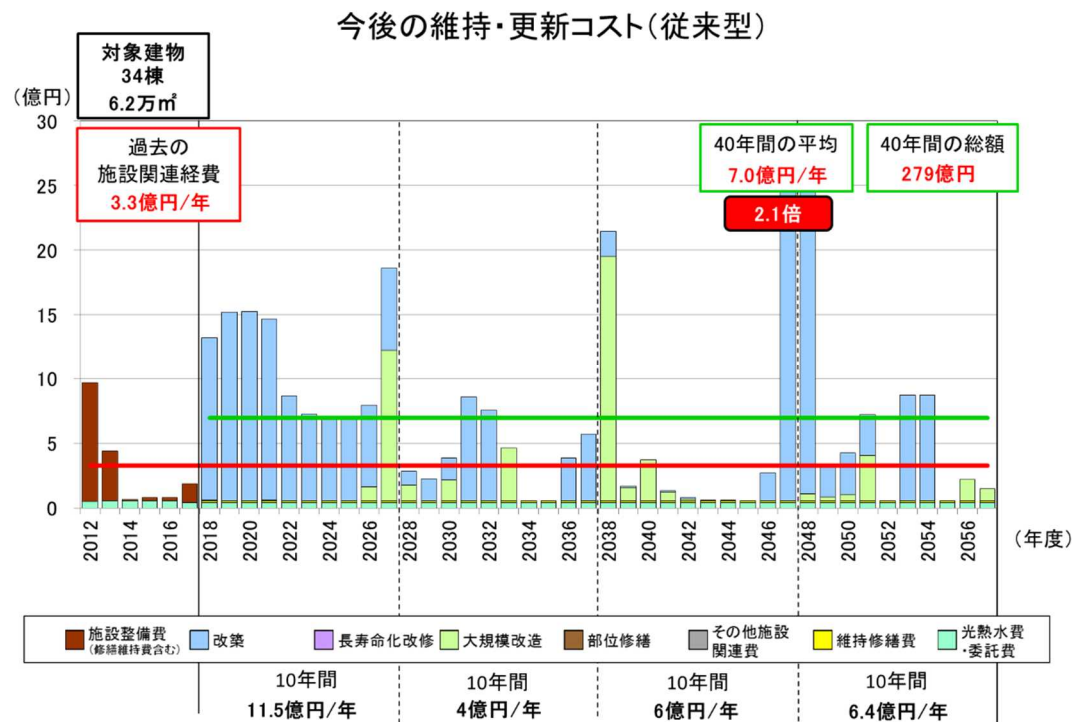
(8) 内部仕上・電気・機械設備評価について

	該当する部位	CまたはDの事象(例)
内部仕上	<ul style="list-style-type: none"> ● 床、壁、天井 ● 内部開口部(扉、窓、防火戸) ● 室内表示、手すり、固定家具など ● 照明器具、衛生器具、冷暖房器具 	<ul style="list-style-type: none"> ● 内部仕上げと設備機器について、該当建物の概ね半分以上の部屋(床面積)にわたって行った改修工事の実施年度を基準とし、経過年数で評価する。 (対象外の工事の例) <ul style="list-style-type: none"> ・特定の教室のみの改修 ・天井張替え、壁の塗り替え、照明器具交換など、部位、機器のみの改修工事 ● 広範囲(25%以上の面積)または随所(5か所以上)に劣化事象がみられる場合は、評価を1段階下げることが目安とする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>床仕上げの剥がれ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>床のひび割れ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>天井材の落下・剥がれ</p> </div> </div>
電気設備	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物内の分電盤・配線・配管 (電灯・コンセント設備) (弱電設備) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>受変電設備、自家発電設備、幹線設備は、学校施設の共用設備のため対象外とする。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物内の分電盤・配線・配管について、該当建物の概ね半分以上の部屋(床面積)にわたって行った改修工事の実施年度を基準とし、経過年数で評価する。 (対象外の工事の例) <ul style="list-style-type: none"> ・受変電設備の更新 ・防災設備、放送設備など、単独設備の更新 (評価例) <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚室やコンピューター室などの改修(整備)はしているが、他の部分は40年以上経過している場合は、C評価
機械設備	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物内の給水配管・給湯配管・排水配管・ガス配管 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>受水槽、高置水槽、浄化槽、各種ポンプ、屋外配管は、共用設備のため対象外とする。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物内の給水配管・給湯配管・排水配管について、該当建物の概ね半分以上の部屋(床面積)にわたって行った改修工事の実施年度を基準とし、経過年数で評価する。 (対象外の工事の例) <ul style="list-style-type: none"> ・部分的な修繕等 (評価例) <ul style="list-style-type: none"> ・給水配管の更新済みで、排水配管は40年以上経過している場合は、C評価 ・給排水配管を一度も更新せず、40年以上経過している場合は、D評価

(「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」より)

第5章 学校改修のコスト比較

(1) 従来型の維持更新コスト



コスト試算条件 (従来型)

改 築			
更新周期	40 年	工事期間	2 年
改築単価	330,000 円／㎡	実施年数より古い建物の改築	10 年以内に実施

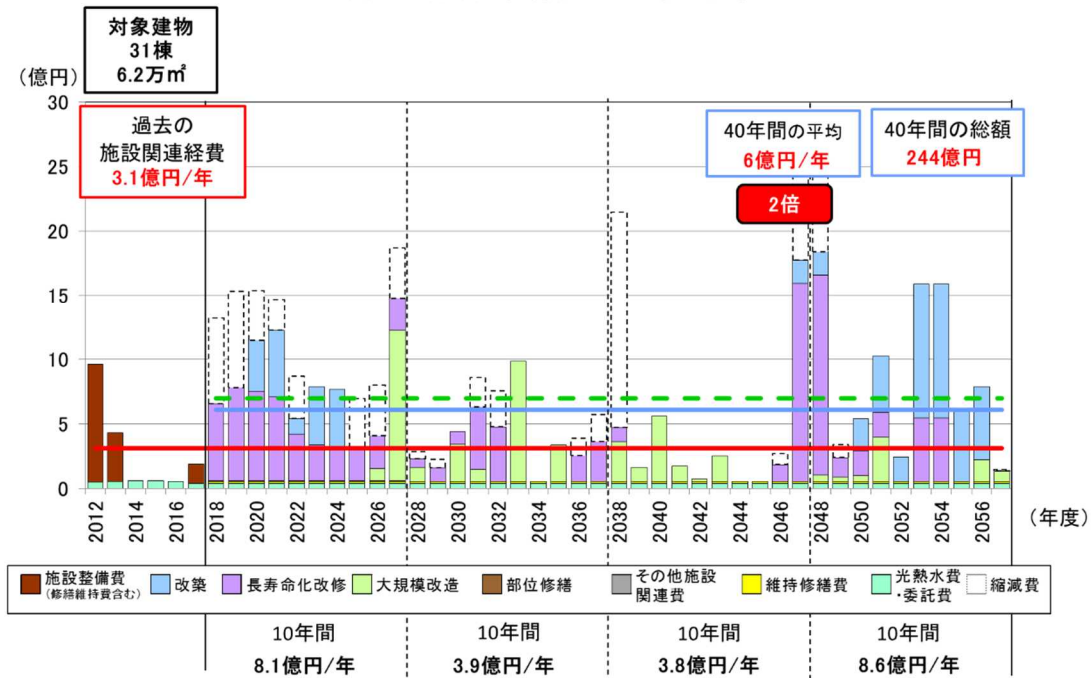
大規模改修		
実施年数	20 年周期	工事期間 1 年

改 築		330,000
長寿命化改修	60.0%	198,000
大規模改造	25.0%	82,500

過去の施設関連経費					
	2012	2013	2014	2015	2016
施設整備費	910,458,104	375,208,111			
維持修繕費	6,290,207	7,724,992	9,048,769	20,940,429	26,762,796
光熱水費	49,761,919	54,347,814	56,853,632	57,482,685	55,577,313
合計	966,510,230	437,280,917	65,902,401	78,423,114	82,340,109

(2) 長寿命化型の維持更新コスト

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)



コスト試算条件(長寿命化型)

コスト試算条件(長寿命化型)

<グラフの年表示>

基準年度 2017 西暦

試算期間: 基準年の翌年度から40年間

改築

更新周期 50 年

<改築、要調査>

<長寿命> ※1 80 年

※1 試算上の区分(改築、長寿命)ごとに更新周期を設定する。試算上の区分が未記入の場合は「改築」と同条件で算出する。

工事期間 2 年

実施年数より古い建物の改築を 10 年以内に実施

長寿命化改修

改修周期 40 年

<長寿命>

工事期間 2 年

実施年数より古い建物の改修を 10 年以内に実施

大規模改造

改修周期 20 年周期

(ただし、改築、長寿命化改修の前後10年間に重なる場合は実施しない)

部位修繕 ※2

D評価: 今後 5 年以内に部位修繕を実施

C評価: 今後 10 年以内に部位修繕を実施

(ただし、改築・長寿命化改修・大規模改造を今後10年以内に実施する場合を除く)

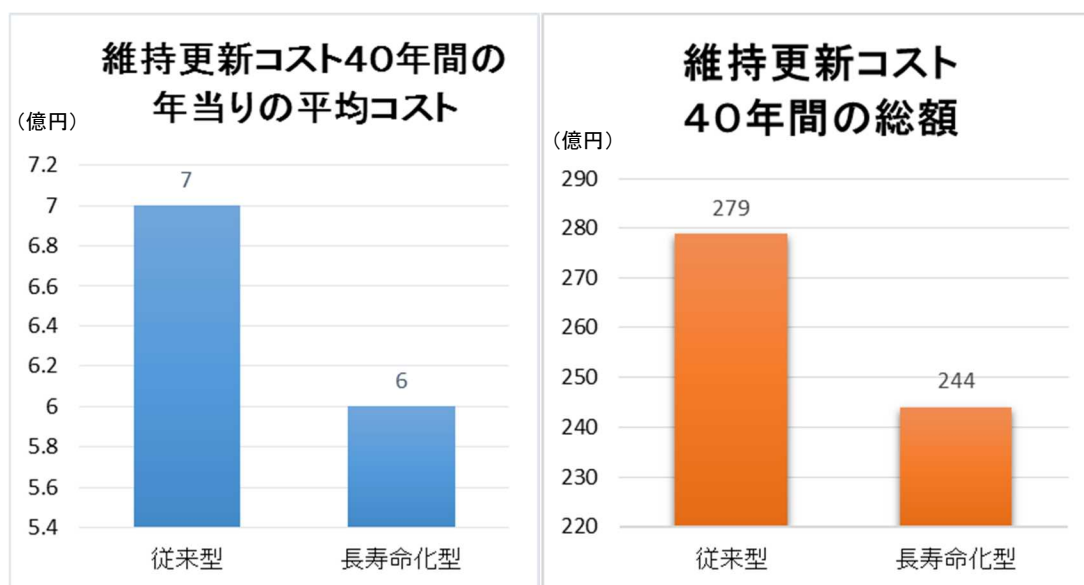
A評価: 今後 10 年以内の長寿命化改修から部位修繕相当額を差し引く

※2 躯体以外の劣化状況が未記入の場合は、部位修繕は算出されない。

(3) 長寿命化のコスト比較と今後の方針

「従来型の維持更新コスト」と「長寿命化型の維持更新コスト」で試算した費用を40年間で比較すると、次のグラフのようになります。年当りの平均コストを比較すると、「長寿命型」の方が1億円のコスト削減が見込まれます。そして、40年間の総額で比較すると、同じく「長寿命型」が35億円の削減が見込まれます。

今後急速に老朽化し修繕・改修等の対策に係る需要が一時的に集中してしまう恐れがあるため、現在の厳しい財政状況のなかで予算の平準化を図り、そして、トータルコストの削減を実施していきます。また、猛暑等による環境変化に伴う児童生徒の健康問題についても施設状況を考慮して早期の改善を検討します。



第6章 直近における個別施設改修計画

（１）直近５年の個別施設整備計画

第１期計画を平成３０年度（２０１８年度）から平成３４年度（２０２２年度）の５年間として、別途詳細計画を作成し、ＰＤＣＡサイクル（計画→実行→チェック→改善）による見直しを行い、次期計画に反映させます。

当面計画では、老朽化したトイレ改修の継続及び猛暑対策としての空調の事業化を早急な課題とし、老朽化した施設の部位修繕のうち緊急的な改修を早期に行います。さらに長寿命化については、第２期以降からの検討とします。

第7章 学校施設個別施設計画の継続的運用について

（１）情報基盤の整備と活用

「府中市公共施設等総合管理計画」に基づき府中市内施設の各部門を横断的に管理し、施設管理の情報をデータベース化し一元管理して、施設の基本情報や光熱水費をはじめとする運営経費、工事履歴や劣化情報もシステムを活用した一元管理を検討します。

（２）推進体制の整備

学校施設の所管課である教育部総務課を中心に、本計画を含む学校施設のマネージメントを行っていくが、必要に応じて府中市公共施設等総合管理計画による各部を横断するマネージメント推進体制により計画の方針の改定や目標の見直しを行い学校施設の長寿命化計画に反映させます。

（３）フォローアップ

本計画は、学校施設の改修や建替えの優先順位を設定するものであり、策定した長寿命化計画の適切な実行を確保するために、「府中市公共施設等総合管理計画」によるＰＤＣＡサイクル（計画→実行→チェック→改善）で監視し、アクションプログラムを作成します。また、当初の平成３０（２０１８）年度から平成３９（２０２７）年度までの１０年を第１期として、以後１０年間ごとに第２期、第３期及び第４期に分け、期ごとに具体的なアクションプランを検討します。学校施設の長寿命化計画は、５年間ごとの個別施設整備計画を策定し、より短い期間で見直しを行います。また、問題が発生した場合には、それをフィードバックしていくため事業の進捗状況、劣化調査結果等を反映しながら具体的な計画の見直しを行い、本計画を維持推進します。